

杉の子

奥多摩町立氷川小学校
学校便り 12月号
令和4年 11月30日発行

「表現力」

校長 松井 良



11月23日(祝)・24日(木)の両日、本校では初めての取組として、「アートフェスティバル」を開催しました。以前隔年で開催していた展覧会としての要素に加え、音楽発表や創作活動も公開する取組として実施しました。「わたしをつくる、あなたをつくる」をテーマに、児童の内面を多様な形で表に現す“表現”の充実を図りました。

“表現”という言葉を広辞苑で調べると、「心的状態・過程または性格・志向・意味など総じて内面的・精神的・主体的なものを、外面的・感性的形象として表すこと。また、この客観的・感性的形象そのもの、すなわち表情・身振り・動作・言語・作品など。」とあります。英語では「expression」、これはラテン語の動詞「exprimo」に由来し、その原義は「ジュースなどを絞り出すこと」だそうです。

フィギュアスケートの採点では演技の表現力を「Program Components (演技構成点)」という5つの視点で評価しています。①「Skating Skills」はスケート技術です。スケーティングの質やスピード、その変化などが含まれます。②「Transition」はつなぎです。要素と要素の間のステップなどを指します。③「Performance」は演技力で、音楽に合った身のこなしやスピードの変化です。④「Choreography」は振り付けで、調和のとれたプログラム構成となっているかを評価します。⑤「Interpretation」は音楽解釈で、音楽を理解しそれに合った動きがなされているかを見取ります。これらを点数化したものと、「Technical elements score (技術点)」の合計から減点分を差し引いて勝敗を決めます。

最近のカラオケ機器には採点機能があり、「音程」「表現力」「ビブラート」「ロングトーン」「安定性」「リズム」の6つ採点項目で評価し点数化しているそうです。カラオケにおける「表現力」とは、「抑揚」「しゃくり(本来の音程よりも少し低い音で入り、本来の音程に声をしゃくり上げて近付ける技術)」「こぶし(声を細かく強弱させたり、音程を一瞬上下させたりする技術)」「フォール(本来の音程よりも低い音程にずり下げる技術)」の4つで、中でも「抑揚」が最重要視されるそうです。

現行の学習指導要領解説体育科編では、低・中学年の表現遊びを「身近な題材の特徴をとらえ全身で踊ること」、高学年の表現運動を「いろいろな題材から表したいイメージをとらえ、即興的な表現や簡単なひとまとまりの表現で踊ること」として、「踊ること」を表現の仕方として示しています。

小学校で指導する音楽科の内容は、A 表現・B 鑑賞の2つの領域で構成されています。A 表現は「歌唱」「器楽」「音楽づくり」の分野に分けられていて、その指導は当然技能を習得させることを含んでいます。図画工作科の内容も、A 表現・B 鑑賞の2つの領域構成となっています。図画工作科ではA 表現を「発想や構想する能力」と「創造的な技能」の2段階でとらえて指導しています。

“表現”つまり「表に現す」とは、内・中・裏に潜み秘められてあるものを外・上・表に出現させることです。見えるもの・聞こえるもの・臭うもの・味わえるもの・触れられるもの・感じられるものへ形づくことであり、表現するためにはその方法を「知っていること」と「できること」が求められるのです。

国語科の書くことの学習だけでも、日記・手紙・物語文・報告書・詩・短歌・俳句など表現の仕方は多様にあります。多様な表現の仕方を「知っていること」、相手や目的、場面に応じた表現の仕方が「できること」が備わり、日頃からそれらを使いこなすことで表現力は豊かになっていくのでしょう。

「スゴ!」「やば!」「えぐっ!」以外にも、賞賛したり感動したり驚愕したりする様子を伝えられる日本語表現がたくさんあることを「知っている」はずなのですが…。

